

上の神輿の幻想的な光景が見られたのである。

水辺の憩の場へ

このように景勝地であった赤浦潟も、湖岸の人工化や、湖水の富栄養化などによって水質に汚れが目立つようになり、水生生物も減少した時期があった。

しかし、近年、赤浦潟の漁業権利者で組織する鯉ヶ浦漁業組合などの取り組みによって少しずつ改善されてきている。

また、「地域づくり」の一環として、堤防の除草や花の植生などを通して環境づくりを行なうなど、「水辺の憩の場」づくりを進めている。

赤浦潟の周囲を散策してみると、ヨシを植えた浮島の姿を目にする。この浮島も、環境整備の取り組みのひとつで、水質の浄化と水生生物の

産卵場所の確保がねらいである。また、このことで、カモなどの水鳥の姿も増えている。

冬場には、ワカサギ釣り（12月から2月いっぱいシーズン）などを楽しむ釣り人の姿をよく見かけますが、放置されたゴミも少なくなってきた。釣り人のマナーの向上と組合員による清掃の成果であろうか。

さらに、魚の卵や稚魚の放流による資源確保も同時に行なわれている。この稚魚放流を、地域の子どもたちにも体験してもらおうことで、子ども頃から潟に親しんでもらう取り組みも行なわれている。

こうした取り組みによって、かつての渡し舟や漁船が湖面に浮かんでいた頃の「景勝地」の復活と、みんなに親しまれる「水辺の憩の場」の完成は、そう遠くないことだろう。



周辺マップ



八景

八景とは、八つのすぐれた景勝をさし、もともと中国の瀟湘八景が始まり。その景勝の基本として夕照・晩鐘・晴嵐・帰帆・落雁・秋月・夜雨・暮雪を題材とし、この題材で、

詩歌や絵画などがつくられる。

日本では、これにならって各地で八景がつくられ、近江八景・金沢八景などが有名で、七尾周辺には、能登八景や七尾八景、和倉八勝などがつくられている。

今月の 主な内容

CONTENTS

まごころ連絡員	4
市・県民税の申告	6
みんなでつくろう「市民憲章」	21